

(6) 学校評価とつなげる

① 学校自己評価アンケートを生徒、保護者の声と関連付けて学校づくりに生かす

 **こんな実践**

児童生徒、保護者、教職員を対象に、同じ内容項目で学校評価アンケートを行い、その分析・検討を基に、課題や次年度の重点に関わる具体的な取組を決めだしていく実践。

実践学校 A 中学校（学級数：13 生徒数：315）

実践時期 11月～2月下旬

○A 中学校では、教職員による学校自己評価を、より多角的に教育活動を振り返る機会とするとともに、今後の学校づくりに生かせるようにするために、次のことを行いました。

- ① 学校教育目標や目指す生徒像と照らして、教職員による学校自己評価のアンケート項目の精選を行いました。
- ② 「①」と同じ内容項目で生徒、保護者にもアンケートを実施しました。
- ③ アンケートの内容項目の変更は最小限にとどめ、単年ではなく、数年にわたって運用することにしました。

○こうすることで、下のような形での集計が可能となります。

アンケートの内容	年度	生徒				保護者				職員			
		A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D
生徒は、家庭学習を大切に考え取り組んでいる。	H27	24	58	16	2	15	49	35	1	0	40	57	3
	H28	35	52	11	2	11	48	39	2	3	37	53	7
	H29	28	58	13	1	17	48	31	4	0	17	78	5



ここがポイント！

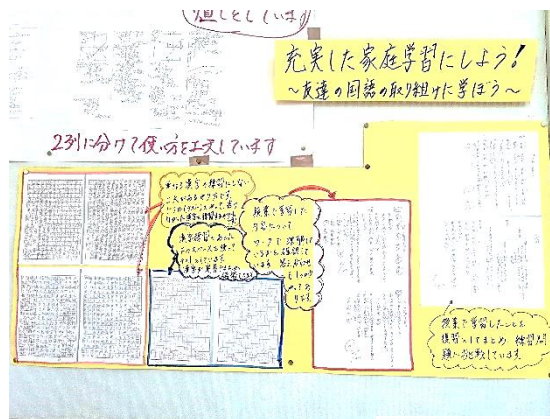
上のような形で学校評価アンケートを実施することの良さは何ですか？

- ✓ 生徒、保護者、教職員で、自校が大切にしていることが何かを共有できます。また、それぞれの意識の共通点や相違点、各項目の経年変化等も明らかになり、学校づくりのヒントが得られます。

○A 中学校では、アンケートの分析・検討を基にプロジェクトチームを組織し、具体的な取組について話し合いを行いました。そこでは、ブレインストーミング法を用いて全員がアイデアを出す場を設けたり、出された意見をマトリクス表に整理してそれぞれの意見の関連が分かるようにしたりするなどの工夫をしたことで、多くのアイデアが検討され、実行に移されました。例えば次のようなものがありました。

① 家庭学習の充実への取組

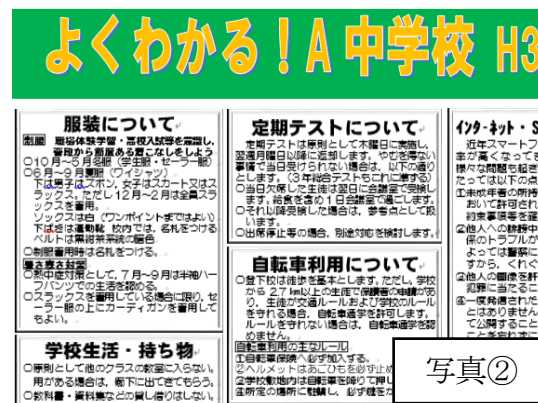
教員のプロジェクトチームだけでなく、生徒会にも家庭学習を充実させるためのアイデア提供を呼びかけ、生徒同士がお互いの家庭学習の様子を見合う場を設けたり(写真①)学習範囲を指定しない自主学習の日を増やしたりしました。保護者の意見も参考にして家庭と連携して「メディアコントロールチャレンジ週間」を設けるなどの取り組みも行っています。



写真①

② 学校からの情報提供の充実・開かれた学校への取組

学校の様子を分かってもらうために、「よくわかる A 中学校」(写真②)というリーフレットを作成しました。これがあることで、生徒や保護者だけでなく、A 中に赴任したばかりの教職員なども、様々な決まりや約束事を共通理解できるようになりました。何か新しい情報を発信するだけでなく、既存の情報を整理したり伝え方を工夫したりすることを大切にしました。



写真②



ここがポイント!

具体的な取組を決めだすときのポイントは?

- ✓ 学校教育目標や目指す生徒像を共有した上で、多様な関係者が話し合いに関わることが大切です。そうすることで、生徒、保護者、教職員の願いや思いから生まれた互恵性のある取組になります。

まとめ

学校評価に関わる各種アンケートは、網羅的に行うのではなく精選して行うことで、自校の学校教育目標や目指す生徒像を生徒、保護者、教職員で共有できるようにしましょう。そこから具体的な取組を決めだしていくことで、開かれたカリキュラムの構想につながります。